

## 事業概要書

事業名	こども・女性活動グループつながりプロジェクト				
開始日	2016年 5月1日	終了日	2016年 10月 31日	日数	153日
団体名	熊本こども・女性支援ネット				
(カウンターパート)	ガール・パワー（一般社団法人日本女子力推進事業団）、(特活) 日本リザルツ、震災支援グループ「光と風」、熊本フラワーエッセンスメンタルサポートセンター、なないろネットワーク熊本、氷川町総合型地域スポーツクラブ～ひかわスポーツクラブ～、一般社団法人 あいむあーす、フェアトレードシティくまもと推進委員会、よか玉市民ネットワーク、コムスタカ 外国人と共に生きる会、株式会社 はぐくみ、NPO いとなみ、一般社団法人 Fun & Fit、Sプロジェクト（シングルマザー就労支援プロジェクト）、特定非営利活動法人 くまもと子どもの人権テーブル、こどもの給食を考える会くまもと、水と緑ワーキンググループ、熊本県内全域の学校給食を無料にする会（仮）、臨時オケタニ式母乳育児相談室				
担当者名	園田 敬子	スタッフ人数	4人		

事業費総額（税込）	3,000,000円
CF 事業枠	3,000,000円
その他資金	0円

事業目的	地元のNPO等が主役となり「こども・女性」の支援分野で活動するグループが連携し協力を強固にするとともに、専門性を活かした活動をより効果的に展開することで、熊本地震を乗り越えて、復興＝持続可能な未来につながる熊本地域づくりを行う
事業全体の概要	<p>●熊本こども・女性ネットとは</p> 平成28年熊本地震を経験し、救援から復興にかけて、こどもと女性のケアが見過ごされることがないように、こどもと女性の声なき声を聴き、権利を保障し、こどもと女性が希望を持ち、自らの日常の安心を取り戻すことができるようサポートしていくため、平成28年4月20日に発足した。 <p>●取り組むべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども・女性」の支援分野で活動するグループの連携・ネットワークの整備</li> <li>・被災後、各団体自らが主体的かつ積極的に活動していくために必要な情報が得られるような場づくり</li> <li>・こども、女性に特化した視点でのニーズの把握、実際の活動の成果を検証し、活動成果の中から見えてくる新たな課題を抽出し、解決に向けた努力をする</li> <li>・活動の中から見えてくる課題を通して、今後も持続的に活動していくための活動方</li> </ul>

## 針・戦略作り

### ●パートナー協働プログラム対象事業

①熊本県内の「こども・女性」支援分野のグループの情報や課題を共有するためのネットワーク強化を目的とした場づくりとしての連絡会の開催（月1回、合計3回を予定）と持続的・発展的な活動を目指したシンポジウムを開催。

・各団体の実施プログラム等の集約と、成果の検証や、検証によって抽出された課題のとりまとめを実施。地域別・分野別のグループワーク（部会）を通して、避難所や被災者支援のプログラムの現状把握や分析などを洗い出して整理する。

・県内の活動団体の調査を実施し、どのような団体があるのか基礎データ、活動内容、現状としてどのような課題や問題を抱えているのか等の調査を実施し、活動団体名簿を作成しながら整理・把握する。

・シンポジウムでは、関係団体に対する啓発活動を行うことを目標とし、その実施準備委員会を設置し、開催に向けた準備作業を行う。

### ②「くまもとハグプロジェクト」と「森の教室プロジェクト」の実施

①の連絡会の中で見えてきた「地震を経験後に心身の異常を訴える人が増加してきている」という部分に着目。特に子どもや子を持つ母親のメンタルケアの必要性があるということに焦点をあて、「くまもとハグプロジェクト」を通じて母と子の心のケアを行う。また、「森の教室プロジェクト」を実施することで、避難所や仮設住宅暮らしで思うように体を動かさずにいる子どもたちの身体機能の低下を解消・予防する。・【くまもとハグプロジェクト】…ハグ（Hug）＝抱きしめることで、地震の恐怖を幾度となく体験した子どもたち、大人たちのトラウマケアを解放することからスタートして、長期的なメンタルケアのサポートをしていくことを目的としている。セミナー・小さな勉強会（セミナー1回、勉強会1回）を通じて、メンタルケアの必要性、理論や手法を理解し、メンタルケアを実践する人材の発掘、育成、コミュニティづくりをする。長期的に、熊本の地域に根差した、メンタルケアサポートの仕組みづくりを目指す。

・【森の教室プロジェクト】…熊本地震の想像を絶する恐怖感と一か月半で1,500回を超える余震等により、子どもたちは見えない不安感や恐怖感、そして、外遊びが不足したことによる体力低下が考えられる。そこで、熊本の大切な財産である自然を生かし、自然が先生となり教室となることで、「大きな変化の中でも乗り越えられる力」を養うための取り組み。アドバイザーに韓国のNPO自分に出会う森のチャン先生、海外から森のようちえん関係の専門家との連携を行う。本事業においては、幼稚園・保育園での体験プログラムの他、先生向けの説明会や交流会、このプロジェクトの指導者になりたい人を対象とした養成講座の実施を予定している。

### ●期待される効果

	<p>持続可能な未来に向けた熊本地域づくりには、長い時間を要することが予想され、また、そこには、こどもの権利の保障や女性の自立をサポートする体制が必要。これまで横の繋がりがなかったこども・女性支援分野で活動している団体同士が情報共有をすることで、ひとつの団体では解決できなかった問題を団体同士で連携して解決できるようなネットワーク作りをすることが必要である。また、後回しにされがちな「支援者のケア」だが、支援者の心理状態がこどもの精神状態に反映されることは想像に難くない。こどもたちのメンタルケアはもちろんだが、こどもたちに関わる大人の不安やストレスを軽減することが、こどもたちのストレスを軽減することにもつながる。これは平時における子育てにおいても非常に大切なことである。このプロジェクトを通して、セルフケアに対する意識を高め、それがこどもや母親のメンタルケア活動に従事する人材の育成につながり、この中から復興を支える人材が育成されることを期待する。</p>
<p>事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)</p>	<p>裨益者 (誰が、何人)</p>
<p>熊本県内の「こども・女性」支援分野のグループの情報や課題を共有するためのネットワーク強化を目的とした場づくりとしての連絡会の開催 (月1回、合計3回を予定) と持続的・発展的な活動を目指したシンポジウムを開催。</p>	<p>熊本県内で活動する団体、こども・女性の被災者 3,000人</p>
<p>②「くまもとハグプロジェクト」「森の教室プロジェクト」の2つのプロジェクトを実施。</p>	<p>熊本県内で活動する団体、こども・女性の被災者 3,000人</p>